



シリーズ226

高めよう!
人権意識

心のかけ橋

関人権・生涯学習課
(☎928-1006)

外国人と人権
より良い関係づくりをめざして

在住外国人の現状

2016年の外国人入国者総数は約2,300万人であり、同年末の在住外国人数は約238万人でいずれも過去最高となっています。

本市でも、約8,500人を超える在住外国人が市内各地に居住し、5年間で約1.35倍に増加し、今後も増加が見込まれています。

また本市は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のメキシコオリンピックチームの事前合宿地(8種目)となっていることから、外国人と接する機会が一層増えることが予想されます。

日常生活の中で在住外国人が地域で暮らしていくにはさまざまな困難があります。なにより大きな困難は

言葉です。日本語が話せない、またはよく理解できないために、地域や職場などで孤立したり地域での決まり事などが理解できずトラブルになったりしている人はいませんか。ひとりで日常生活といってもさまざまな場面があり簡単にはいきません。災害時などにおいてはなおさらです。それでは、どのようにしたら相手と上手にコミュニケーションがとれるのでしょうか。



「やさしい日本語」や「多言語表示シート」を使う

やさしい日本語は、外国人のためだけではなく誰にでも分かりやすい言葉です。例えば「避難場所」と言うより「逃げる所」と言った方が伝わりやすいと思いませんか。

やさしい日本語のポイント

- ①一つの文を短くし、簡単な構造にする(主語と述語を明確に)
例:○○は●●です。だから…
- ②難しい言葉は簡単な言葉に言い換える
例:今朝 → 今日の朝
余震 → あとからくる 地震
- ③あいまいな表現は避ける
例:おそらく、たぶん
- ④漢字にはルビ(ふりがな)を付ける

日頃からやさしい日本語を使ってコミュニケーションをとっておくと、いざというときにも役立ちます。

また、インターネットで「多言語表示シート」と検索してみてください。このシートは災害時向けに作成されたものですが、多言語で作成・掲載されており、日常生活において使えるものもあるので活用してください。

大切なことは相手を尊重し、自分の意図を伝えようとする姿勢です。お互いの文化などを大切にしながらより良い関係を築いていきたいものです。

認め合おうみんな違ってあたりまえ